

山梨県立

考古博物館だより

<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

NO.74

開館 30 周年記念特別展

インカ帝国展

～マチュピチュ「発見」100年～

9月18日(火)～11月14日(水)



《小型女性人物像》ペルー文化省・トゥクメ遺跡博物館



《アリバロ》ペルー国立クスコ大学・インカ博物館

今年で30年目を迎えます山梨県立考古博物館では、開館30周年記念特別展「インカ帝国展～マチュピチュ『発見』100年～」を開催します。

本展は、米国の歴史学者ハイラム・ビンガムがマチュピチュを発見してから100年を記念し、約160点の出土品を通じて、インカ帝国の全容を紹介するものです。帝国の成立からスペイン人による滅亡までを、貴重な金属製の人形や生け贄のための祭礼品、ミイラといった多様な出土品を通じて「考古学」「人類学」「歴史学」をはじめ様々な視点からひもときます。

是非この機会に直接ご覧下さい。

平成24年9月

山梨県立考古博物館

館長 神津 孝正

インカ帝国展～マチュピチュ「発見」100年～

山梨県立考古博物館は、今秋11月3日に開館30周年を迎えます。毎年、秋には特別展を開催していますが、今回で30回目となる節目の特別展は、「インカ帝国展 ～マチュピチュ『発見』100年～」を開催します。

総点数約160点のインカの考古遺物は、その多くが日本初公開になります。その一端を紹介します。

インカ帝国とはどのような文明だったのか。その全貌を紹介する大規模な展覧会は、日本では開催されたことはありませんでした。15世紀半ば～16世紀前半に繁栄した南米最大にしてアンデス文明最後の国家、インカ帝国。車輪も文字も鉄器も持つことはなかった彼らが、なぜ多数の巨大建造物を擁する大文明を短期間に築くことができたのでしょうか。なぜそれほど高度な文明が、一握りのスペイン人の侵略の前にあっけなく敗北したのでしょうか。「太陽の王」とはどのような存在だったのでしょうか。考古学・人類学・歴史学などの分野の最新研究をもとに、インカ文明の全貌に迫っていきます。

【考古学】

遺跡から発掘されたインカ帝国の工芸品や儀式に使われた遺物。そこにはインカ帝国の象徴的な文様や当時の様子を表す図像が残されていました。デザインを読み解くことにより解明されるインカ帝国の王族の姿。発掘された遺物から考古学の視点でインカの謎を解き明かします。



左《人物像型容器》ペルー国立考古学人類学歴史学博物館

右《男性用貫頭衣チュニック》ペルー国立考古学人類学歴史学博物館



【人類学】

インカ帝国の特徴であるミイラ信仰。インカ王はミイラとなった後も生前と同じように権力を持ち続けた…。

さらに、帝国の辺境にもミイラ信仰は浸透していました。人類学の視点から、最新科学を用いてミイラに隠されたミステリアスなインカ帝国をひも解いていきます。

左《ミイラ包み》レイメバンバ博物館

右《眼球のあるミイラ》レイメバンバ博物館

【歴史学】

悲劇のラストエンペラー、アタワルパ。たった160人ほどのスペイン軍によってインカ帝国は滅ぼされ、アタワルパは処刑された。歴史学の視点からスペイン人が書き残したクロニカ（記録文書）や絵画資料を読み解くことにより、インカ帝国の最後と、スペイン人によって植民地化されたインカ帝国の姿が浮かび上がってきます。



左《銀製行列十字架》オズマ美術館

右《ドン・アロンソ・チワン・インガの肖像画》ペルー国立スコ大学・インカ博物館

インカの謎が、やってくる

◆展示の構成

インカ帝国展は、4部に分けられ構成されています。各部を概説していきます。

第1部 帝国の始まりとその本質

鉄器も車輪も持つことがなかったインカとはどのような文明だったのか。インカ王と王に仕える人々を始め、太陽信仰、巨大な石造建築、農耕や芸術などインカ帝国を支えてきた本質に迫ります。

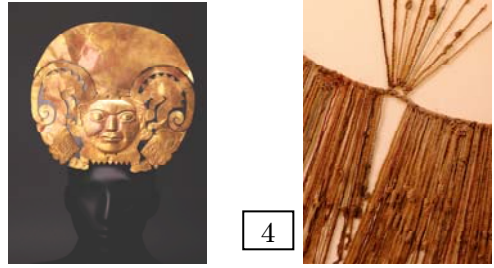


1

2

第2部 帝国の統治

支配した地方へ服従を約束させる《インカと乾杯》。人口移動制度の《ミトマク》。総延長4万キロメートルに及ぶ『インカ道』。南北に4千キロメートルにも広がる地域を支配したインカ帝国の特異な仕組みに迫ります。



3

4

第3部 滅びるインカ、よみがえるインカ

1533年にスペイン人のフランシスコ・ピサロにより、最後のインカ帝国皇帝アタウルパが処刑され、帝国は崩壊したが、「インカ」は消滅しなかった。「植民期インカ」とでも呼ぶべき独自の文化を育んだインカの姿に迫ります。



5

6

第4部 マチュピチュへの旅

1911年7月24日ハイラム・ビンガムがマチュピチュを「発見」したことでインカ帝国の名は、世界に広がった。「空中都市マチュピチュ」は一体誰が何のために建設したのか。遺物から500年前のマチュピチュの実態に迫ります。



7

8

- 1 《木製ケロ》ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
 - 2 《アリバロ》ラファエル・ラルコ考古学博物館
 - 3 《モチェ文化の金合金製の頭飾り》ラファエル・ラルコ考古学博物館
 - 4 《キープ》(部分)レイメバンバ博物館
 - 5 《銀製酒杯アキリャ》ペルー国立アレキパ大学・マリア・モランテ考古学博物館
 - 6 《ストゥルワシの聖母〜クスコにおける征服最初の奇蹟》バルボッサ・スターン・コレクション
 - 7 《土器の壺》ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
 - 8 《青銅製の六芒星型棍棒の頭》ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
- 写真撮影:義井 豊 氏

●3Dスカイビューシアター

標高2400メートルの断崖に、インカ時代の栄華を残す「天空の都市」へと貴方をご案内します。「見張り小屋」から眺める遺跡と周りの山々、見事なアーチ型石組建築の「太陽の神殿」、現地でも見ることでできない上空からの姿や500年前の在りし日の様子など、実写映像とバーチャルリアティーを組み合わせる日本初の試みで、時空を超えるマチュピチュの旅を体感していただけます。世界で初めての広範囲に及ぶマチュピチュ遺跡の三次元計測による立体形状をもとに、これまでにない圧倒的没入感のあるシアターを展開します。

◆インカ帝国展のご案内

・関連するイベントのご案内は、6ページにあります。

- 会期 平成24年9月18日(火)～11月14日(水)
- 休館日 毎週月曜日 ただし、10月8日(体育の日)は開館し、翌9日(火)が休館になります。
- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 観覧料 一般・大学生 1,050円(840円) 小・中・高校生 420円(330円)
- ※()内は、20名以上の団体/前売料金。常設展の観覧には、別途常設展観覧料が必要です。年間パスポート制度のほか、割引制度があります。詳細はホームページをご覧ください。
- お問い合わせ 山梨県立考古博物館 電話 055-266-3881
- <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/> <http://www.uty.co.jp/inkaten/>

第24回風土記の丘こどもまつりを開催しました

今年は5月4・5日の2日間、風土記の丘・曾根丘陵公園をメイン会場に開催しました。2日間とも大変多くの方に来場いただきました。毎年大人気の「勾玉作り」、「トンボ玉作り」をはじめ、「縄文風スナック鹿肉燻製試食」「古代食感黒米ご飯試食」など、様々なアトラクションで楽しみながら、古代への興味、関心を高めていただきました。



古代の火起こし



狩猟体験

★アトラクション内容★

- 「古代の火起こし」体験
まいぎり式火起こし器で火起こしを体験！
- 「縄文風スナック鹿肉燻製試食」
古代のスナックを再現！
- 「狩猟体験」 弓矢での狩猟体験！
- 「古代と遊ぼう」
埴輪を的にした輪投げや、土器や土偶のパズルにチャレンジ！
- 「勾玉作り」体験
親子で古代アクセサリー勾玉作り！
- 「トンボ玉作り」体験 古代の装身具作りに挑戦！
- 「縄文土器太鼓」体験
岡谷市民が中心の『JOMON DOKI DRUM BAND 森の精霊』の演奏に参加して太鼓をたたこう！
- 「古代食感黒米ご飯試食」
土器で炊いた黒米を、試食！
- 「史跡クイズウォークラリー」
曾根丘陵公園内や博物館内にあるクイズを解きながら公園内を散策！

小・中学生親子のものづくり教室 チャレンジ博物館

- *第1回「弥生時代の矢じりをつくろう」(5/20)
石をけずりみがいて当時の矢じり(矢の先端部)をつくることを通して、磨製石器をつくる技術を体験しました。
- *第2回「縄文時代の布を編んでみよう」(6/17)
縄文時代以来の技法「編布(あんぎん)」という編み方でコースター作りを体験しました。
- *第3回「縄文時代のかごをつくろう」(7/1)
小さめのかごを作りながら、縄文時代の「編む」技術を体験学習しました。
- *第4回「縄文土器をつくろう」(7/15・7/22・8/5)
夏休み恒例のイベント。県内出土の実物をモデルに、天然ものの粘土を使用して土器づくりの技術を学びました。
- *第5回「土偶をつくろう」(8/19)
博物館に展示されている県内出土品を参考にして、土偶づくりに挑戦しました。

大人のものづくり教室 原始古代の技に学ぶ

- *第1回「トンボ玉作り教室」
～古代の装身具作り体験～(4/14)
- *第2回「青銅鏡作り体験」
～海獣葡萄鏡・連弧文銘帯鏡～(5/13、5/19)
- *第3回「縄文土器作り教室」(6/2・6/9・6/23)
- *第4回「草木染め教室」
～夏空色のストールを染める～(7/7)
- *第5回「トンボ玉作り教室」
～古代の装身具作り体験～(8/4)



チャレンジ博物館「土偶をつくろう」

夏休みフリーパスポートで考古博物館を満喫!

今年も県内の小中学生に「4館夏休みフリーパスポート」が配布されました。この夏休みフリーパスポートは、県立博物館、美術館、文学館、当館の4館が行っているもので、7月10日～8月31日の期間、児童・生徒がこれを持参すると何回でも観覧料が無料になるものでした。多くの児童・生徒さんが来館してくれました。

また、これにあわせて7月16日(月)から8月31日(金)までイベントを開催しました。勾玉づくりは、丁寧に石を削ってきれいな形にしていました。青銅鏡作りでは、親子で力を合わせて磨き上げる姿が見られました。土器の拓本をした小学生は、読書のときに出来上がったしおりを使うと言っていました。暑い中、火起こしに挑戦した小学生は、火を起こすことの大変さを感じていました。トンボ玉作りでは、出来上がったトンボ玉の美しさに感動する子がいました。

大勢のみなさんが、夏休み中、考古博物館でいろいろな体験をして楽しみ、感動をしていました。



土器の拓本製作の様子

★史跡文化財セミナー

県内の史跡を歩いて探訪する史跡文化財セミナー、第52回「国宝清白寺から窪八幡神社」では、山梨市教育委員会の三澤達也氏を講師に、清白寺、法蔵寺、窪八幡神社などを歩きました。第53回「中央市小井川遺跡と周辺の文化財」では、中央市教育委員会の今村直樹氏を講師に、小井川遺跡、上窪遺跡などを歩いて巡りました。第54回「大月市子の神古墳と周辺の文化財」では、大月市教育委員会の杉本正文社会教育課長を講師に、子の神古墳や猿橋などを巡りました。多くの方にご参加いただき、有意義な学習を行うことができました。

第52回「国宝清白寺から窪八幡神社」(山梨市) 4月22日(日)

○清白寺、法蔵寺、窪八幡神社など

第53回「中央市小井川遺跡と周辺の文化財」(中央市) 6月17日(日)

○妙泉寺、小井川遺跡、上窪遺跡など

第54回「大月市子の神古墳と周辺の文化財」(大月市) 8月5日(日)

○子の神古墳、森武七墓碑、西国三十三番観音霊場写、猿橋など



第52回史跡文化財セミナー(窪八幡神社)

★考古学講座

今年度は「考古学が語る、暮らし・環境・自然災害」と題して、4名の先生方をお招きし、環境や自然災害が古代の暮らしに与えた影響に視点をあて、わかりやすく講義をしていただきました。これまでの4回すべての講座を受講された方もいらっしゃいました。参加者のみなさまの関心の高さに驚きました。

今年度は冬季企画展「甲州市の出土品Ⅱ」タイアップ講座として平成25年1月12日(土)に第5回目の講座を開催する予定です。講師は、甲州市教育委員会の飯島 泉 氏です。



第2回考古学講座

第1回「旧石器時代編 ～ここまでわかった！旧石器時代の環境と暮らし～」

講師：当館学芸課長 保坂 康夫 6月10日(日)

第2回「縄文時代編 ～富士山の火山災害と縄文の人々～」

講師：富士吉田市教育委員会 篠原 武 氏 7月1日(日)

第3回「弥生時代編 ～農耕文化の到来と暮らしの変化～」

講師：大月市教育委員会 稲垣 自由 氏 7月22日(日)

第4回「古墳時代編 ～カイノクニ(甲斐の国)に生きる～」

講師：甲州市教育委員会 入江 俊行 氏 8月19日(日)

★考古博物館の日

月の第4土曜日を考古博物館の日として、ミニイベントを開催しています。第1回(4/28開催)は、古代衣装を実際に身につけていただき、古代人の雰囲気を感じてもらいました。また、土器の拓本をとり、土器を身近に感じてもらいました。第2回(5/26開催)は土器を使ってお米を炊く、「古代米を炊いてみよう！」を実施しました。第3回(6/23開催)は弓を使って狩猟体験をしたり、石器の切れ味を試してもらったりしました。そして、第4回(7/28開催)は、「考古博物館 まるごと探検隊！～土偶にさわろう！土偶を作ろう！」～と題して、普段は見ることができない収蔵庫に入って収蔵品を見たり、さわったりしました。また、土偶を実際に作り、縄文時代の人々の思いを感じました。

今後の予定を載せておきます。多くの皆様の参加をお待ちしております。

1月26日 考古博物館でお宝発見！

2月16日 考古博物館冬まつり



「古代米を炊いてみよう！」

★春・夏の企画展から

○春季企画展 「躍動の5世紀～古墳時代中期の山梨～」 4月28日(土)～7月1日(日)

今から1600年前の日本列島は、倭の五王の一人である雄略天皇が活躍し、次第に国がまとまっていった時代です。甲府盆地の中期古墳は大きくはないものの、乗馬や甲冑など新来の文物がもたらされました。移りゆく古墳時代、躍動する甲府盆地を紹介しました。



夏季企画展の様子

○夏季企画展 「土偶のねがい～縄文の母たちからのメッセージ～」

同時開催「富士山への祈り」7月21日(土)～8月31日(金)

はるか昔の縄文時代は、子どもが産まれて、大人に成長することは、それは大変なことでした。「子どもたちが、健康で大きく育ちますように・・・」そんな縄文人たちの思いのこもった土偶の展示会を開催しました。また、近年活発に行われている富士山の調査について、明らかになった謎の一端も紹介しました。

考古博物館 10月から3月までの催し物

小・中学生親子のものづくり教室
チャレンジ博物館

大人のものづくり教室
原始古代の技に学ぶ

- ・縄文土器をつくろう 10月7日(日)
- ・森の木の実で染めてみよう 10月28日(日)
- ・インカ帝国展関連企画
「インカの杯 ケロをつくろう」 11月11日(日)
- ・干支の土鈴をつくろう 12月2日(日)
- ・縄文時代のアクセサリを作ろう 1月13日(日)
- ・古墳時代のはにわをつくろう 2月10日(日)

*事前のお申し込みが必要です。



縄文時代のアクセサリ



けつ状耳飾り

- ・インカ帝国展関連企画
コチニール染め「インカの赤を染める」
10月13日(土)・11月4日(日)
- ・勾玉作り 12月8日(土)
- ・草木染め 1月26日(土)・27日(日)
- ・縄文土器作り 2月2・9・23日(土)
- ・青銅器作り体験 3月16日(土)・24日(日)

*事前のお申し込みが必要です。

*教材費・保険料が必要です。



青銅鏡

★ものづくり教室は、開催日1か月前より風土記の丘研修センター(電話 055-266-5286)にて参加お申し込みを受け付けます。

展示会・イベント案内 ◆展示会情報 ◇イベント等情報 ◆インカ帝国展関連情報

- ◆特別展記念コンサート 特別展開催期間中の毎週日曜日(雨天中止)
「アンデスの調べ」 フォルクローレ音楽をお楽しみください。
- ◇第55回史跡文化財セミナー 甲斐銚子塚から右左口宿 10月21日(日) 事前のお申し込みが必要です。
当館西にある甲斐銚子塚古墳から右左口宿を歩いて巡ります。
- ◆特別展記念講演会 10月28日(日) 事前のお申し込みが必要です。
インカ帝国展を記念しての講演会を開催します。講師は、東京大学大学院総合文化研究科教授 網野徹哉氏
国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長 篠田謙一氏のお二人です。
- ◆ぬりえをぬって考古博物館へ行こう!
特別展のぬりえをぬって考古博物館に持ってきてくれた小学生は、特別展観覧料が無料になります。
- ◇県民の日イベント「縄文土器の拓本をとろう!ぬりえをぬろう!」 11月20日(火)
県民の日は、常設展が観覧無料。
- ◇考古博物館の日イベント「考古博物館でお宝発見!」 1月26日(土) 事前のお申し込みが必要です。
- ◇考古博物館の日イベント「考古博物館冬まつり」 2月16日(土)
- ◆冬季企画展「甲州市内の出土品Ⅱ」12月8日(土)～1月27日(日)
- ◆平成25年 新年干支展 1月2日(水)～1月27日(日)
平成25年の干支である「巳」に関する資料をエントランスホールにてミニ展示します。
- ◇古代のもちつき 1月2・3日(水・木)
弥生時代の木製品をモデルに作った竪杵で黒米など古代米入りのお餅について試食します。
- ◇第5回考古学講座 1月12日(土) 事前のお申し込みが必要です。
冬季企画展「甲州市内の出土品Ⅱ」とタイアップした講座を開きます。
- ◇第56回史跡文化財セミナー 「加牟那塚、穴塚周辺の古墳群」2月24日(日) 事前のお申し込みが必要です。
甲府市の古墳群を歩いて巡ります。
- ◆風土記の丘望見展 2月5日(火)～3月20日(水)
風土記の丘研修センターにて開催します。
- ◆第10回わたしたちの研究室展示会 2月5日(火)～3月3日(日)
応募していただいた県内の小中学生の考古学や歴史学に関係した研究成果をすべて展示します。
- ◆山梨の遺跡展2013 3月9日(土)～4月7日(日)
主に平成24年度、山梨県内で発掘調査された遺跡の調査・整理作業の成果を展示します。
山梨県埋蔵文化財センター主催。

★イベントの詳細はホームページに随時掲載していきます。

県立考古博物館ホームページ <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

インカ帝国展ホームページ <http://www.uty.co.jp/inkaten/>(考古博物館のホームページからリンクされています。)

また、お電話でお気軽にお問い合わせください。(電話 055-266-3881)

★お申し込みが必要なものは開催日の1ヶ月前から参加お申し込みを受け付けます。

○考古博物館および周辺古墳の説明メニュー

～～当館のおすすめコース～～

- 考古博物館見学…展示室概略コース 40～60分
エントランスホールにて概略を説明後、職員が先導して詳細説明を行います。
 - 古墳見学…現地同行概略コース 30～50分
古墳現地まで職員が同行し、古墳の概略説明を行います。
- * 上記以外のコースについては、風土記の丘研修センター（電話 055-266-5286）までお問い合わせいただくか、考古博物館ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>



* 見学する人数に応じて、コースを選択・設定することができます。グループ分けなどにより最大 250 名程度まで対応できます。

○原始・古代の技術体験学習メニュー

	所要時間	内 容 等	人数等	材料費
古代の火起こし	約 40～50 分	古代の火起こしの概要説明とまいぎり式火起こしを体験します。1グループ(4～6名)に1組の発火具で、時間内に交代で体験します。 ※小学校3年生以上(小学校5年生以上が理想的です)	130名まで	—
	約 60～80 分	原始から近世までの火起こしに関する詳細説明と主にまいぎり式を用いた火起こしを体験します。もみぎり式やひもぎり式、弓切りや火打ち式等の火起こし体験も可能です。 ※小学校3年生以上(小学校5年生以上が理想的です)	30名まで	—
まが玉作り	約 80～90 分	素材は滑石 (20×10×30 cm)。紙ヤスリで削り、磨いてまが玉を作ります。 ※小学校4年生以上(小学校5年生以上が理想的です)	50名まで	1人 150円
古代の編み物	約 80～90 分	編布(アングン)は、カラムシやミヤマイラクサ、麻などからとった植物繊維を素材とする日本最古の布で、各地の縄文時代の遺跡から発掘されています。当館では「越後アングン」にならい専用の編布台を使って、麻ヒモでコースターを作ります。 ※小学校5年生以上	30名まで	1人 100円
縄文の土鈴作り	約 30～60 分	一人約 50gの粘土で球形の土鈴を製作します。半球形のを二つ作り、中に粘土の粒を数個入れつなぎ合わせます。表面をきれいにし、文様を入れます。1週間ほど乾燥させた後、野焼きで焼成させます。※小学校4年生以上(小学校5年生以上が理想的です) ※宅配便でのお送りも可能です(送料は、別途学校負担)。	30名まで	1人 100円

- * 小・中学校、高等学校等の見学のお申し込みは、TEL055-266-5286（風土記の丘研修センター）へ
- * 小・中学校、高等学校等以外の団体でのお申し込みは、TEL055-266-3881（考古博物館）へお願いします。
- * 体験学習は、考古博物館を見学した学校・団体に限ります。
なお、体験学習のお問い合わせ、お申し込みは風土記の丘研修センターへ。
- * 考古博物館(古墳)から風土記の丘研修センターへは、遊歩道が設けられています。(20～25分程度かかります。)

○古代衣装レプリカ教材貸出

学校向けに古代衣装の貸し出しを行っています!!

- 種類☆弥生時代や古墳時代の服(貫頭衣)
 ☆古墳時代の豪族や武人の服(胡服)
 ☆まじないや祭祀をつかさどった巫女の服
 ☆高松塚古墳の壁画に描かれた女官の服
 ☆高松塚古墳の壁画に描かれた官吏の服
- ※上記の衣装をそれぞれ3着用意してあります。
 実際に手に取り着用することによって、歴史を身近に感じ、古代人の生活の一端をイメージして膨らませることにより、学習の機会を広げてください。

○職場体験・インターンシップ受入れを行っています。

当館では、毎年県埋蔵文化財センターと共同で中学生の職場体験学習及び高校生のジュニアインターンシップの受入れを積極的に行っています。今年度は、8月末までに韮崎市や甲府市、笛吹市、富士河口湖町などの中学校 12校 26名、高校 2校 3名の生徒の皆さんが緊張しながら体験を行いました。

※体験の主な内容
 (期間に応じて内容が変わります)
 ・博物館と学芸員について(講義)
 ・常設展の概要(見学)
 ・教育普及活動(実習・補助)
 ・土器の拓本 ・発掘体験など



古代衣装貸出、職場体験・インターンシップのお申し込みは、

TEL 055-266-3881 (考古博物館まで)

第10回わたしたちの研究室

夏休みの自由研究や選択社会、総合的な学習の時間など、児童・生徒の研究作品を募集しています。この事業は、小中学生のみなさんが考古学や歴史の楽しさを知り、興味を持つ機会とするために実施しております。優秀作品を表彰する他、応募いただいた研究成果すべてを公開・展示いたします。

内容	山梨県の考古学や歴史学などの社会科歴史的分野に関する研究成果
対象	県内の小中学生(個人やグループ、学級・学年・学校単位)
部門	○児童・生徒がそれぞれ自由なテーマで、または教育課程において統一したテーマで取り組んだ個人研究・作品およびグループ研究・作品 ①個人研究部門・小学校の部 ②個人研究部門・中学校の部 ○学級・学年・学校(部活動等を含む)で行った研究または統一したテーマのもとで研究した児童・生徒個人の成果をとりまとめたもの、あるいはその指導過程。 ③団体研究部門
表彰	3つの部門それぞれ最優秀賞(教育委員長賞)1名、優秀賞(教育長賞)2名、努力賞(県考古学協会賞)若干名、奨励賞(館長賞)若干名
応募規定	①学校で取りまとめて郵送もしくはご持参ください。 ②研究成果(表紙)・作品には学校名・学年・氏名・ふりがな・テーマを記載してください。 ③申し込み時に「参加申込書」(様式1)と「展示用解説書」(様式2、団体部門Ⅱのみ)をご提出ください。 ④未発表のものであれば過去(概ね1年以内)に研究した成果でも応募可とします。
応募期間	平成24年9月1日(土)～11月30日(金)
表彰式	平成25年2月3日(日)
発表会	平成25年2月3日(日)
展示会	平成25年2月5日(火)～3月3日(日) ※ご応募の詳細・応募用紙などは当館ホームページに掲載しております。

考古博物館・風土記の丘研修センター利用のご案内

山梨県立考古博物館 TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882

開館時間 午前9時から午後5時まで
ただし、入館は午後4時30分まで
休館日 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)
12月29日～1月1日

※次の場合観覧料が免除になります

- ・65才以上の方(ただし、特別展は県外の方を除く)
- ・障害者手帳をお持ちの方
- ・毎週土曜日の小・中学生、高校生
- ・県民の日(11月20日)
- ・県内の学校の教育課程での見学(下記参照)

県内の学校の利用と観覧料免除について

- ・教育課程(県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校)で入館される場合は観覧料が免除になります。
- ・見学予定日の10日くらい前までに、観覧料免除申請書を提出してください。
- ・見学時間を充分にとり、ゆっくりと見学できるようにしてください。
- ・できるだけ下見をし、担当と打ち合わせをしてください。

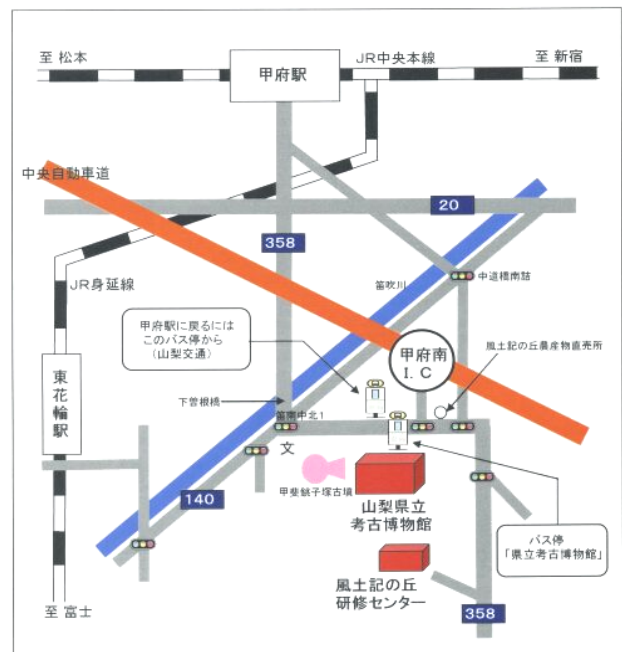
学校見学の申し込みと問い合わせ先
TEL 055-266-5286 風土記の丘研修センター

交通

- 路線バスの利用
 - ・甲府駅南口8番乗場より「75系統 中道橋経由豊富行」で約30分「県立考古博物館」下車
- 自家用車の利用
 - 中央自動車道甲府南インターチェンジ前

風土記の丘研修センター TEL 055-266-5286 FAX 055-266-5287

休館日 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)
12月29日から1月3日



編集後記

今秋開催される開館30周年記念特別展「インカ帝国展」の情報と今年度前期の講座、イベント等の様子をお知らせしました。今後も考古博物館の活動にご関心を寄せていただければ幸いです。(枝)

発行 山梨県立考古博物館 〒400-1508 山梨県甲府市下曽根923
TEL 055-266-3881(代) FAX 055-266-3882

発行日 平成24年9月1日
印刷 株式会社 峡南堂印刷所